柱２ 基礎・基本を確実に習得する

■ 知識・技能の活用について（国語科）

学んだことを自ら活用しようとする意欲を高めることができるよう、知識・技能を活用して課題を解決するよさを実感したり、学習活動を見通して習得した知識・技能を必要に応じて活用することの意義を理解したりするなどの指導の工夫を図る必要があります。

身に付けた知識・技能を活用する場を取り入れた実践事例（中学校第２学年）

「書くこと」の学習活動で、「相手や目的に応じた話しや文章の展開〔言語事項工〕」についての知識を身に付けます。

【単元　意見文を書こう】

〔目　　標〕 自分の意見を分かりやすく伝える構成を考えて書く。

〔学習活動〕・情報社会、環境問題のどちらかを選び、自分の考えの仮説をたてる。

文章の様々な形態に関する知識を身に付け、家庭学習で活用できるようにします。

構成メモ　２年○組　□□□□
○課題
・情報が氾濫している・・・
○事実
・情報の信頼性には違いがある・・・
○意見
・複数の情報を比較すること・・・

・考えを支える事実、そこから生まれる課題を明らかにする。
・段落を「課題」、「事実」、「意見」ごとにつくり、構成を考えて意見文を書く。

本単元で習得した知識・技能を活用し、他の単元において課題を解決します。

「話すこと・聞くこと」の学習活動で、文章の様々な形態に関する知識を活用して、聴衆に分かりやすい話となるように展開を工夫します。

【単元（話すこと・聞くこと）】
「パネルディスカッションをしよう」

〔目標〕
話の中心と付加的な部分の関係を明確にして話したり聞いたりする。

〔学習活動〕
・職場体験を通して考えたことを１００字以内で書く。
・グループ内で共通点・相違点を明らかにする。
・グループごとに、主張すべき内容を事実と意見で構成し、パネラー原稿を作成する。
・代表がパネラーとなって学級全体でパネルディスカッションを行う。

「読むこと」の学習活動で、文章の様々な形態に関する知識を活用して、文章の展開の特徴をとらえ、中心となる段落の構成を理解します。

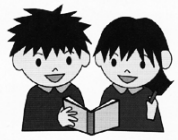
【単元（読むこと）】
「自分の考えを明らかにしよう」

〔目標〕
目的に応じて文章を読み、自分の考えを明らかにする。

〔学習活動〕
・社会生活において関心のある内容にかかわって、複数の資料を選ぶ
・それらの資料を読み、事実と筆者の考えを明らかにし、複数の資料の共通点を明らかにする。（家庭における読書との関連ー読書記録（右上参照【自学シート】）にメモ）
・事実に基づいた自分の考えを確かにする。

学習する領域が違っても、相手に分かりやすく伝えるための話や文章の展開についての知識・技能を活用する必要性を高めます。

教科　道徳　特別活動　総合的な学習の時間



工夫のポイント

知識・技能を活用して課題を解決するよさを実感させます。

本単元で身に付けた知識（感想文や観察記録文、報告文、論説文等の文章の様々な形態に関する知識）が、様々な文章の展開の特徴を明らかにする家庭学習において活用できるようにし、子どもが身に付けた知識を活用して課題を解決するよさを実感できるようにします。

習得した知識・技能を必要に応じて活用することの意義を理解させます。

授業で学習する内容をあらかじめ伝え、これまで学習してきたことを確認するとともに、これからの学習活動を見通しながら、必要に応じて知識・技能を活用することの意義を理解させるようにします。

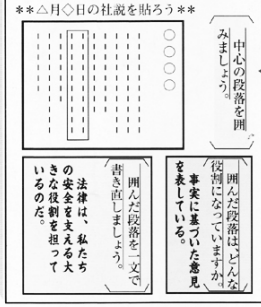
◆工夫例：「自学シート」の工夫

学んだ知識・技能を活用して取り組むことのできる家庭学習や放課後等の補充的な学習との関連を図ることができるよう、「自学シート」などを用いて、知識・技能を活用して課題を解決するよさを実感させるようにしています。

家庭学習の例

書き直しにチャレンジ！
２年○組　氏名□□□□

＊＊△月◇日の社説を貼ろう＊＊



【自学シート】 中学校２年○組　氏名 □□ □□

6月	家庭学習計画		自己評価（5段階） 家庭学習	放課後練習	読書記録	先生からの一言アドバイス
1	〔国語〕	〔数学〕	5	3	7/2〜7/6	「新聞の社説」の最も大切な段落を見付けて、的確な要約ができましたね。
2	文章の要約	文字式	4		「ぼくの出会ったアラスカ」	国語の授業で、「構成メモ」を作成する時に身に付けた「文章の様々な形態に関する知識」がしっかり身に付いてますよ。
3	↓	↓	4	5	星野道夫	
4		連立二元一次方程式	5			
5	活用のある自立語	↓	3	5	感想	
6	↓		4		人は、自然の中で生かされていることをしっかり感じなければいけないと思った。	
7			4	4		
8			5			
9	小見出しづくり		4	4		
10						

「自学シート」などの活用に当たっては、子どもが家庭学習の計画を自ら作成することができるようにするとともに、日常の読書との関連を図りながら、自ら学んだり、考えたことを簡単に振り返ることなどを通して、学ぶ意義を理解させることが大切です。

◆工夫例：「月別学習活動表」の工夫

事前に「月別学習活動表」を配布し、子どもが学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に行うことを通して、必要な場面において、知識・技能を効果的に活用する意義を理解させるようにしています。

〔９月の学習計画ー国語編ー第２学年〕

「今月のポイント」９月は、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の２つの学習活動を展開します。８月で習得した「相手や目的に応じた話や文章の展開」についての知識を活用することがこの学習のポイントです。

授業の目標	学習内容	学習のポイント	評価する内容と方法	自己評価（5段階）	自己評価（記述）
話の中心と付加的な部分の関係を明確にして話したり聞いたりする。	単元「パネルディスカッションをしよう」 ・職場体験から考えたことについて、パネラー原稿を作成し、パネルディスカッションを行う	観察記録や報告文、意見文の構成の特徴を生かしてみよう。	評価内容 ・話の中心と付加的な部分との関係をとらえて話したり聞いたりする。 評価方法 ・聞き取りメモ ・パネラー原稿	聞き取りメモ（4） パネラー原稿（5）	・意見文の形態を使ってパネラー原稿がうまく書けました。 ・それ以外の話の形態の場合にうまく聞き取りメモがとれないときがあったので、もっといろいろな話の形態を知っておく必要があると思いました。
目的に応じて文章を読み、自分の考えを明らかにする。	単元「自分の考えを明らかにしよう」 ・あるテーマに関連する複数の資料を読んで、共通点を見出し、自分の考えを明らかにする。	文章の形態が違っても、事実と意見を区別して読んでみよう。	評価内容 ・複数の資料の共通点から、自分の考えをワークシートに書く。 評価方法 ・ワークシート	ワークシート（4）	・自然環境に関する３つの資料から環境を保全する取組を進める共通の考え方が分かりました。 自分の考えを明確にするにはもっと事実を調べる必要があることも分かりました。

「月別学習活動表」等の活用に当たっては、子どもが目標を実現するために学習内容を理解し、実現状況を自ら把握することなどを通して、知識・技能を活用することの意義を理解させることが大切です。

コラム
～言語活動の効果的な展開～

各教科等の指導に当たっては、子どもの思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、子どもの言語活動を充実させる必要があります。

例えば次のような言語活動を工夫する必要があります。

〔社会科における言語活動〕
例：観察や調査などの過程と結果を整理し、報告書にまとめ、発表する。（中学校）

〔算数科における言語活動〕
例：言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする。（小学校）

〔理科における言語活動〕
例：観察、実験の結果を整理し考察する学習活動や、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする。（小学校）

〔技術・家庭科における言語活動〕
例：生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりする。（中学校）

〔道徳における言語活動〕
例：自分の考えを基に、書いたり検討したりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるようにする。（中学校）

道教委作成資料３